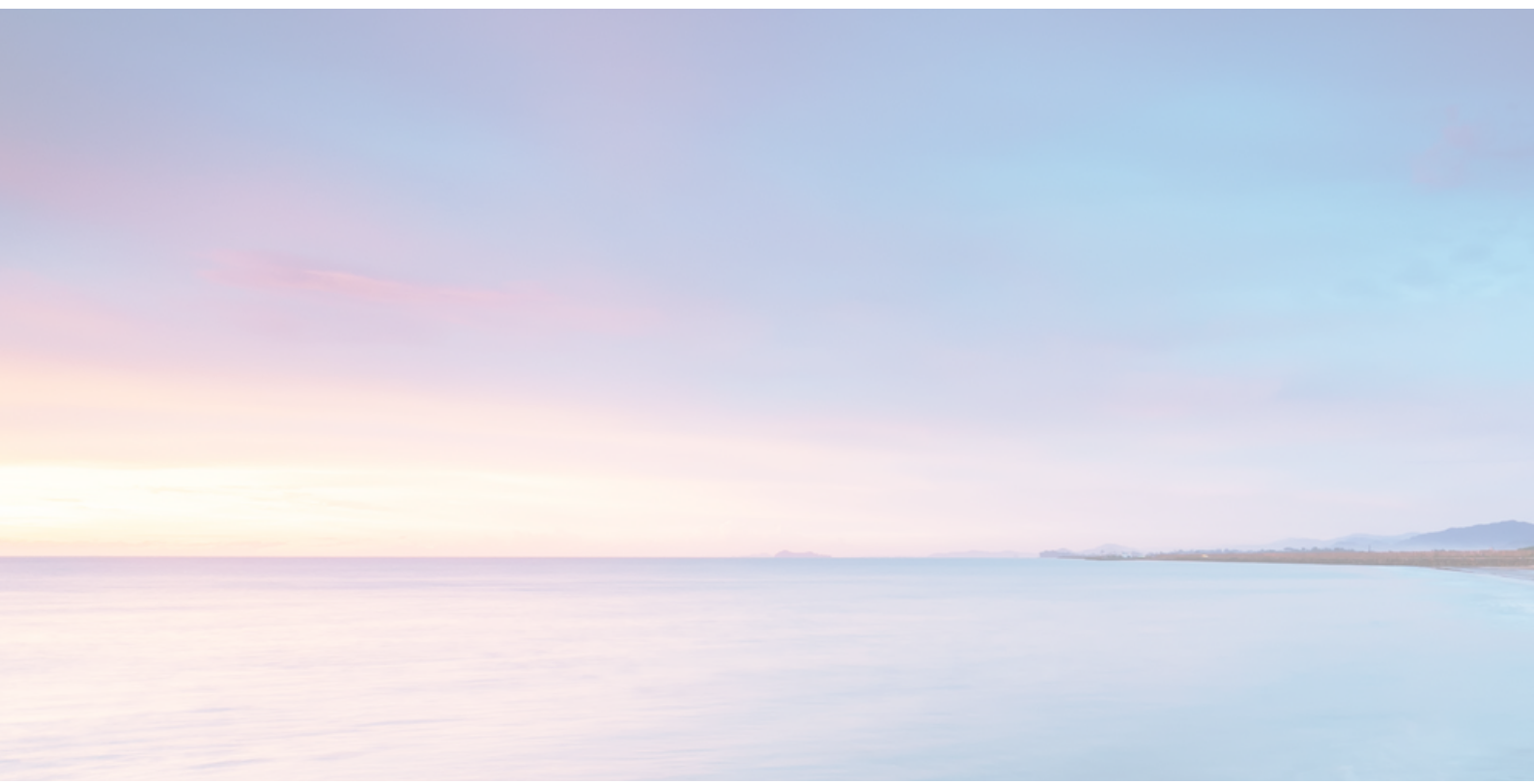


イベント・インフォメーション

シンポジウム:IOG/IFI2023 年度シンポジウム	120
国際交流:2023 IARU.....	122
国際交流:米国・メリーランド大学との交流会	124
イベントカレンダー	125
メディア情報	126
出版物	128
沿革・組織図	129



シンポジウム

IOG/IFI2023 年度シンポジウム

生きがいに関する再考、研究、地域実装

2024年2月3日（土）に東京大学浅野キャンパス武田ホールにて、高齢社会総合研究機構（IOG）と未来ビジョン研究センター（IFI）の共催によるシンポジウムが開催されました。本シンポジウムでは、昨年度に引き続き「生きがい」をメインテーマに掲げました。前回は、誰もがウェルビーイング（心身ともに良好な状態、いわゆる幸福）を感じながら、生きがいを持ち、自己実現できる、そんな地域社会（まち）について議論を重ねました。今回は「生きがい」第2弾として、多世代をつなぐ社会貢献活動に長年取り組んでいる東京都健康長寿医療センター研究所 副所長藤原佳典先生をお招きし、＜多世代共創社会を拓くプロダクティブエイジング（Productive Aging）といきがい＞のテーマで地域現場のお話も交え多様な通いの場・化学反応の起こる居場所の重要性についてお話をいただきました。



基調講演

『多世代共創社会を拓くープロダクティブエイジングと生きがい』

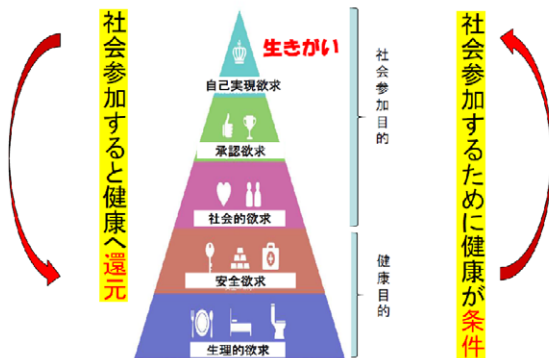
藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）

- ・なぜ、多世代共生なのか
- ・これからの地域づくりと多様な通いの場
- ・ポピュレーションアプローチは三方良しから～りぷりんとからの学び



介護予防・フレイル予防は何のため？

「人間は自己実現に向かって絶えず成長する」



マズロー-欲求階層モデルを参考に作成

今、なぜ多世代交流なのか？

地域コミュニティのSDGsのため

➤ 「誰も取り残さない」とは、
「三方よし」「論語と算盤」（澁澤栄一）

➤ 持続可能とは「我が事」化

「子供叱るな来た道だ、
年寄り笑うな行く道だ」



ポピュレーション&ハイリスクの2刀流アプローチ



パネルディスカッション

『社会貢献や居場所づくりを通じて、誰もが生きがいを実感できる社会。なにができるのか？』

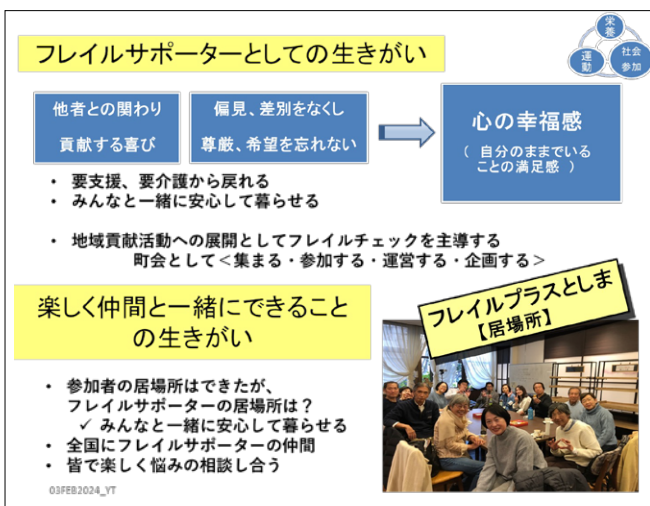
総合司会：飯島 勝矢

パネリスト：藤原 佳典

- ：大月 敏雄（東京大学大学院工学系研究科 教授／高齢社会総合研究機構 副機構長）
- ：祐成 保志（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授／高齢社会総合研究機構 副機構長）
- ：榎本 涼子（社会福祉法人 文京区社会福祉協議会）
- ：谷津 行穂（東京都豊島区フレイルサポーター）
- ：南 秀郎（NPO 法人りぷりとネットワーク監事／りぷりと・すぎなみ代表）

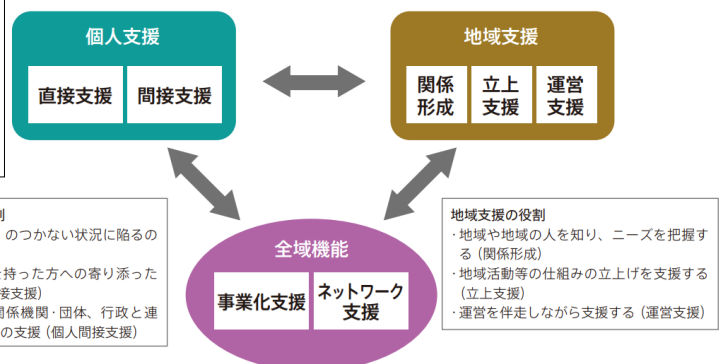


パネルディスカッションでは、会場からの意見や質問も交えて、オンライン参加 500 名と会場の 100 名を超える方々が身近な地域の未来を思い描く機会となりました。



谷津 行穂さん
(東京都豊島区フレイルサポーター) スライド

地域福祉コーディネーターの取組について



榎本涼子さん（文京区社会福祉協議会）スライド

国際交流

2023 IARU

Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future

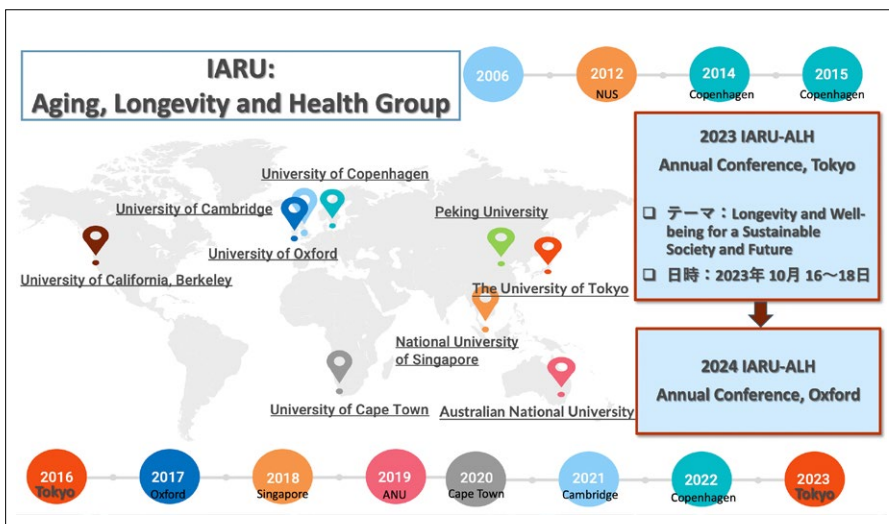
IARU: International Alliance of Research Universities 国際研究型大学連合の Aging, Longevity, and Health (ALH) グループでは、Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future をテーマとした国際会議を開催しました。

IARU（国際研究型大学連合）のもとで 2012 年からエイジングと健康に関する共創研究や人的交流を推進する Aging, Longevity, and Health (ALH) イニシアティブが活動しており、高齢社会総合研究機構 (IOG) と未来ビジョン研究センター (IFI) コミュニティ協創部門 人生 100 年を設計する超高齢社会まちづくり研究ユニットは、その取り組みに参加し国際ワークショップの開催や参加、若手研究者の交流を積極的に行ってきました。

IARU Aging, Longevity, and Health (ALH) グループでは、2023年10月16(月)～18日(水)に東京大学 伊藤国際学術研究センターにおいて東京大学・IARU メンバー大学所属の学生、研究員、教員などを対象に Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future をテーマとし高齢社会総合研究機構と未来ビジョン研究センターの共催で 2023 IARU-ALH Annual Conference を開催しました。

このカンファレンスは、メンバー校が持ち回りで開催しており ALH 分野で将来活躍が見込まれる学生や若手研究者の育成およびネットワークづくりを推進すること、また、人口高齢化や長寿化に伴う世界的な課題、そして各国の特徴のある地域コミュニティの理想像等に関する連携を深めることを目的として開催しているものです。

今回のカンファレンスには、オーストラリア国立大学 (ANU)、シンガポール国立大学 (NUS)、北京大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ (ETHZ)、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、コペンハーゲン大学などからシニア・ファカルティ、学生・若手研究者が対面で参加し、本学からも WINGS-GLAFS プログラムなどから10名、合計20名の発表が行われました。また、その他の学生参加者も活発な議論とネットワーキングを行いました。この3日間のプログラムは、高齢化社会のリーダーとして期待される大学院生や Early Career Researchers が、科学が高齢化・高齢化社会の問題にどのように貢献できるかを学び、意見交換を行い、老年学研究の国際的なネットワークに加わるという、またとない機会を提供するものでもありました。



初日は、大学院生や Early Career Researchers が、医学、バイオ・エンジニアリング、生物学、心理学、神経科学、社会経済学、環境学、技術、医療統計など多様な分野における各自の研究の取り組みや成果を発表しました。参加者は、加齢と健康に関する最新の課題や、健康な高齢社会を実現するために世界中の研究者や社会がどのように研究をしているかを学ぶ貴重な機会となりました。

2日目は、上記のプレゼンテーションの他に今回の学会のテーマである "Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future" に関して特にウェルビーイングや日本の観念である IKIGAI についてのワークショップを実施しました。

参加者は、5つのグループに分かれ、

- 1) Sharing your country's situation,
- 2) How IKIGAI/purpose in life should be measured ? ,
- 3) How to encourage/empower IKIGAI/purpose of life of older adults? について活発な議論を行いました。

また、午後には秋晴れの中、安田講堂、三四郎池などの構内の名所を巡るキャンパスツアーを行いました。

最終日には、Steering Committee と Early Career Researchers の二つのグループに分かれ、これまでの活動の振り返りと今後の取り組みなどが話し合われたのち、参加者全員で3日間の経験を振り返り、共有しました。この学会で交わされた議論や構築されたネットワークは、ALH 分野に持続的な影響をもたらすであろう貴重な成果となりました。



ディスカッションの様子

【主なプログラム】

■10月16日

午前：Welcome Speech, keynote lectures and self-introduction by all participants

Keynote lectures by

- ・ Dr. Kensuke FUKUSHI, Director, Institute for Future Initiatives, The University of Tokyo
Future of local community in Anthropocene

- ・ Dr. Yuto KITAMURA, Professor, Graduate School of Education, The University of Tokyo
Healthy aging and well-being through the promotion of lifelong learning

午後：大学院生や Early Career Researchers による研究計画・成果の口頭発表

■10月17日

午前：大学院生や Early Career Researchers による研究計画・成果の口頭発表

午後：Plenary discussion – "Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future"

Introductory presentations of themes for discussion

ワークショップ：グループワークと発表

■10月18日

Room 1：ALH Steering Committee Meeting

Room 2：Early Career Researchers: Network Meeting

Reflections & Closing Remarks



キャンパスツアー



集合写真

国際交流

米国・メリーランド大学との交流会

2024年6月20日、アメリカ・メリーランド大学から副学長、教員2名、および各専門分野で優れた業績を認められた修士・博士学生11名が高齢社会総合研究機構（IOG）を訪問しました。IOGからは、機構長である飯島勝矢教授、孫輔卿特任准教授、田中友規特任助教、そして、GLAFS学生の呂偉達さん（6期生）、増田桃佳さん（8期生）が参加しました。この交流では、高齢化が進行する社会における重要な課題に対処する革新的な戦略を共有し、特にフレイル予防と健康促進に関する取り組みを中心に、フレイルの早期発見を促進するための市民参加型プログラム、生活の質の向上を目指した健康増進活動、口腔健康を保つオーラルフレイル対策といった具体的なテーマを取り上げ、高齢者の生きがいを可視化し、健康データの分析を通じて生活の質を向上させるための研究方法について深く議論されました。この訪問では、両大学の参加者間での知識と経験を共有することができ、生活環境や地域社会のサポート体系の強化に向けた具体的な提案がなされ、実際の介入プログラムへの応用可能性についての洞察が得られるなど、今後の高齢者支援策の開発に向けて双方の理解を深めることができ、また、新たな共同研究プロジェクトや学生交流プログラムの発展につながる大きな一歩となる可能性を示すことが出来た貴重な機会になりました。



集合写真



交流会の様子

イベントカレンダー

2023年度	
4月	● 高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS 2023年度開講式 ● ジェロントロジー産学連携プロジェクト「ジェロントロジー・アカデミー」2023年度開講式
5月	● 「日米健康長寿交流プログラム」米国コミュニティ代表团 来訪
6月	● 北京市・中日友好病院の訪日団 来訪 ● 米国・メリーランド大学との若手交流会 (P124参照)
7月	● 縮小居住グローバル・セミナー ● 「イオン杯」交流会 in 東京大学
8月	● ジェロントロジー産学連携プロジェクト2Days Workshop ● 台湾・厚労省見学団 来訪
9月	● ジェロントロジー産学連携プロジェクト前期総括会
10月	● IARU国際会議「Longevity and Well-being for a Sustainable Society and Future」東京大学 (P122-P123参照)
12月	● 韓国・厚労省視察団 来訪 ● 東京都フレイルサポーターの集い
2月	● 第7回全国フレイルチェックの集い(オンライン) 「フレイルチェック活動から生まれる「絆」～みんなの幸せはわたしの幸せ～」
3月	● 「おうちえ」シリーズ第3弾 80歳以上の元気高齢者に学ぶ「健康長寿の秘訣BOOK」リリース ● IOG/IFI2023年度シンポジウム (P120-P121参照) 「生きがいに関する再考、研究、地域実装」 ● ジェロントロジー産学連携プロジェクト年度総括会 ● 高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS 2023年度修了式

東京都フレイルサポーターの集い



イオン杯 学生参加

第7回全国フレイルチェックの集い



2023シンポジウム



IARU-ALH Annual Conference Program



メディア情報

発売日・出演日	媒体・番組名	記事・特集名	執筆・出演者
2023/4/18	日本テレビ	カズレーザーと学ぶ。『この時期激増!?高齢者だけじゃない!東大が大実験!逆走はなぜ起こる?』	二瓶 美里
2023/5/1	健康保険組合連合会 「すこやか健保」 Vol.894, p.2	フレイル予防 人とのつながりで衰えない生活習慣をつくる	飯島 勝矢
2023/5/4	NHKニュース	「令和6年能登半島地震」関連	飯島 勝矢
2023/5/4	AERA.dot	シニアの筋トレ連載 「人生100年時代は『筋力』が大切」	飯島 勝矢
2023/5/5	AERA.dot	シニアの筋トレ連載 「シニアは肥満より【痩せ】に注意」	飯島 勝矢
2023/5/13	NHK WORLD, BIZ STREAM	Seniors with More to Give, GBERの紹介	檜山 敦
2023/5/17	日本経済新聞 日経電子版 シニアサポーター	シニアの食堂で高齢者の孤立を防ぐ 栄養不足も解消	飯島 勝矢
2023/5/23	読売新聞	「フレイル講座」地域活動に上限関係なし	荻野 亮吾
2023/6/1	広報富士見6月号 No.993	健康ワンポイント!	飯島 勝矢
2023/6/4	東京新聞	人生100年時代を生きる オーラルフレイル予防で健康長寿を目指そう	飯島 勝矢
2023/6/13	令和5年度版消費者白書	【事例】高齢者の社会貢献活動の促進に向けた支援	檜山 敦
2023/7/5	時事通信ウェブサイト	「黄信号」ともさぬように～手前の「プレフレイル」で対策を	飯島 勝矢
2023/7/19	(社)地域共生社会研究会	医療と介護2024 【対談】地域包括ケアの今とフレイル予防への期待	辻 哲夫
2023/7/29	静岡新聞	県営住宅保証人廃止へ 単身高齢者入居円滑に	大月 敏雄
2023/8/1	医学書院	病院 第82巻 第8号 第5回 地域と医療の未来を創る中小病院のあり方 大病院と在宅の間をつなぎ、積極的にまちをつくる ー人口減少・超高齢時代の中小病院の役割ー	辻 哲夫
2023/8/21	住まい・すまいWeb 住宅生産団体連合会	郊外戸建てにおける喫緊の取組の必要性和将来展望	辻 哲夫
2023/8/26-9/2	週刊現代	幸せに生きるコツ<III> 安心してください、人生の幸福曲線はU字型です	菅原 育子
2023/8/31	NHK・関西のニュース	羽曳野市 認知症予防へ健康診断データをAI分析 東大と協力	酒谷 薫
2023/9	北海道大学総合博物館 ボランティアニュース No.67	伊福部音楽と家系図	伊福部 達
2023/9/1	毎日新聞	健診データで認知症研究: 羽曳野市と東大協定 11年文化解析へ	酒谷 薫
2023/9/1	栄養と料理9月号 Vol.89(9)	フレイル予防は十人十色「フレイルドミノ」は自分で防ごう!/ 「筋肉は裏切らない」は本当です!サルコペニアとコロナフレイル	飯島 勝矢
2023/10/7	神戸新聞	フレイル予防講演会	飯島 勝矢
2023/10/30	BBC News	日本は高齢化問題を解決することができるのか? (ラテンアメリカと他の国々への教訓は?)	Hiroko Costantini
2023/11/1	文光堂	内科総合誌 Medical Practice 在宅医療のすすめ	辻 哲夫
2023/11/8	NHK Eテレ	きょうの健康: 『骨の“新健康術”③骨折を防ぐ!ポイントは“足裏”』	田中 敏明

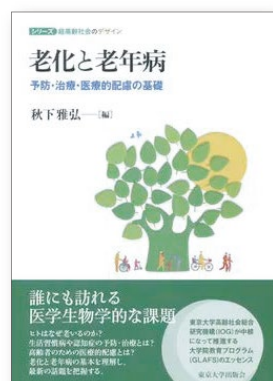
メディア情報

発売日・出演日	媒体・番組名	記事・特集名	執筆・出演者
2023/11/11	社会保険研究所	社会保険旬報 レコーダ 医療経済フォーラム・ジャパン主催 第113回定例研究会から	辻 哲夫
2023/11/11	The Journal of JAHMC	The Journal of JAHMC INTERVIEW 柏プロジェクトが示した健康長寿のまちづくり	辻 哲夫
2023/11/20	中央法規	介護福祉士の専門性とは何か 私たちの果たすべき役割と責任	辻 哲夫
2023/11/24	東京新聞	ひとり親「内覧すらさせてもらえなかった」…物件探し難しい「住宅弱者」どう支援する？ 民間企業も参入	大月 敏雄
2023/11/30	日本経済新聞	札幌、バリアフリー対応に遅れも 初のバラ開催ならず	松田 雄二
2023/12/5	住宅新報	「ごちゃまぜコミュニティ」創出へ	大月 敏雄
2023/12/5	NHKニュース	高齢者など賃貸住宅の入居支援 国の検討会が対策案とりまとめ	大月 敏雄
2023/12/5	REUTERS PLUS, Japan in the new decade(Podcasts)	JAPANESE TECHNOLOGY Tackling Aging Populations	秋山 弘子
2023/12/15	読売新聞新聞	医療ルネサンス北陸フォーラム 人生100年時代を元気で乗り 切るために ～健康長寿と幸福長寿 鍵は“フレイル予防”～	飯島 勝矢
2023/12/20	株式会社財界研究所	【季刊】監事No.025 ー特別対談インタビュー 藤本加代子氏と石井統市氏の対談を 受けてー 「介護現場において、QOL確保のため全ての人に大切なのは『笑顔』です」	辻 哲夫
2023/12/29	AERA.dot	シニアの筋トレ連載 「寝たきり予防に「たんぱく質」 食が細くなった 高齢者でもできる筋肉を保つ食事のポイントを専門家が紹介」	飯島 勝矢
2023/12/30	文藝春秋	文春ムック 特別編集メディカルムック スーパードクターに教わる 最新治療2024 地域包括ケアシステムが柏市にもたらした成果とは	辻 哲夫
2024/1/19	NHK Eテレ 「あしたも晴れ! 人生レシピ」	料理と美容 輝く80代	飯島 勝矢
2024/1/26	読売新聞	第44回 世界健康フォーラム2023 パネルディスカッション	飯島 勝矢
2024/1/31	株式会社財界研究所	財界 辻哲夫・元厚生労働省事務次官が語るー特別対談インタビュー 藤本加代子氏と石井統市氏の対談を受けてー 「介護現場において、QOL確保のため全ての人に大切なのは『笑顔』」	辻 哲夫
2024/2/1	台東区 元気情報誌 ココカラ	特集私たちフレイルサポーターです!	飯島 勝矢
2024/2/4	NHK総合「1ミリ革命」	地域の健康を守れ!	飯島 勝矢
2024/2/16	Housing Tribune Online	大和ハウス工業 奈良・コトクリエで団地再生シンポジウムを開催	大月 敏雄
2024/2/27	介護ポストセブンウェブサイト ニュース	「ガムを噛む習慣がある高齢者」は オーラルフレイルの有症率が4割も低い<最新研究レポート>	飯島勝矢
2024/3/1	地主と家主	ごちゃまぜコミュニティ×自分らしく暮らせる賃貸住宅	大月 敏雄
2024/3/9	東京都後期高齢者医療広域連合 「東京いきいき通信」Vol.36	健診とフレイル予防	飯島 勝矢
2024/3/25	読売新聞	日常生活 総合的に見直す	飯島 勝矢
2024/3/26	YBS山梨放送	山梨県広報番組「やまなしのチカラ」安心な暮らし	酒谷 薫
2024/3/29	産経新聞ニュースサイト	増える「老衰死」20年で8倍に 日本人の9人に1人、 「長寿より天寿」意識の変化も	飯島 勝矢
2024/3/30	朝日新聞 be on Saturday	口の衰えを防ぎ 健康で長生きを	飯島 勝矢

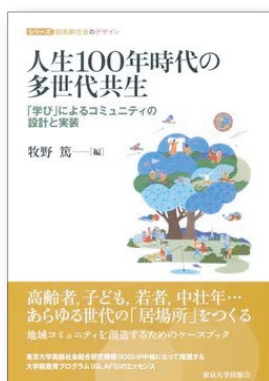
出版物

シリーズ〈超高齢社会のデザイン〉

GLAFS講義をもとにジェロントロジーという学問の体系化を目指すシリーズ本刊行中(2023年度以降も続刊予定)



老化と老年病
予防・治療・医療的配慮の基礎
秋下雅弘編 東京大学出版会
2020年2月



人生100年時代の多世代共生
『学び』によるコミュニティの
設計と実装
牧野篤編 東京大学出版会
2020年9月



ジェロンテクノロジー
高齢社会を支える
情報通信技術の展開
廣瀬通孝・伊福部達編
東京大学出版会 2021年11月



高齢者法
長寿社会の法の基礎
樋口範雄・関ふ佐子編
東京大学出版会 2019年8月

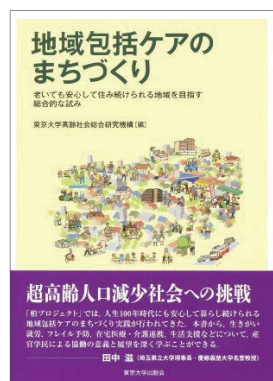


社会保障制度
国際比較でみる年金・医療・介護
岩村正彦・嵩さやか・中野妙子 編
東京大学出版会
2022年6月



ケアシステム
「治し支える医療」を実現する
地域包括ケア
飯島勝矢・山本則子編
東京大学出版会
2023年3月

IOGメンバーの著書



地域包括ケアのまちづくり
老いても安心して住み続けられる
地域を目指す総合的な試み
東京大学高齢社会総合研究機構編
東京大学出版会 2020年10月



超高齢社会のまちづくり
地域包括ケアと
自己実現の居場所づくり
後藤純編
学芸出版社
2023年4月

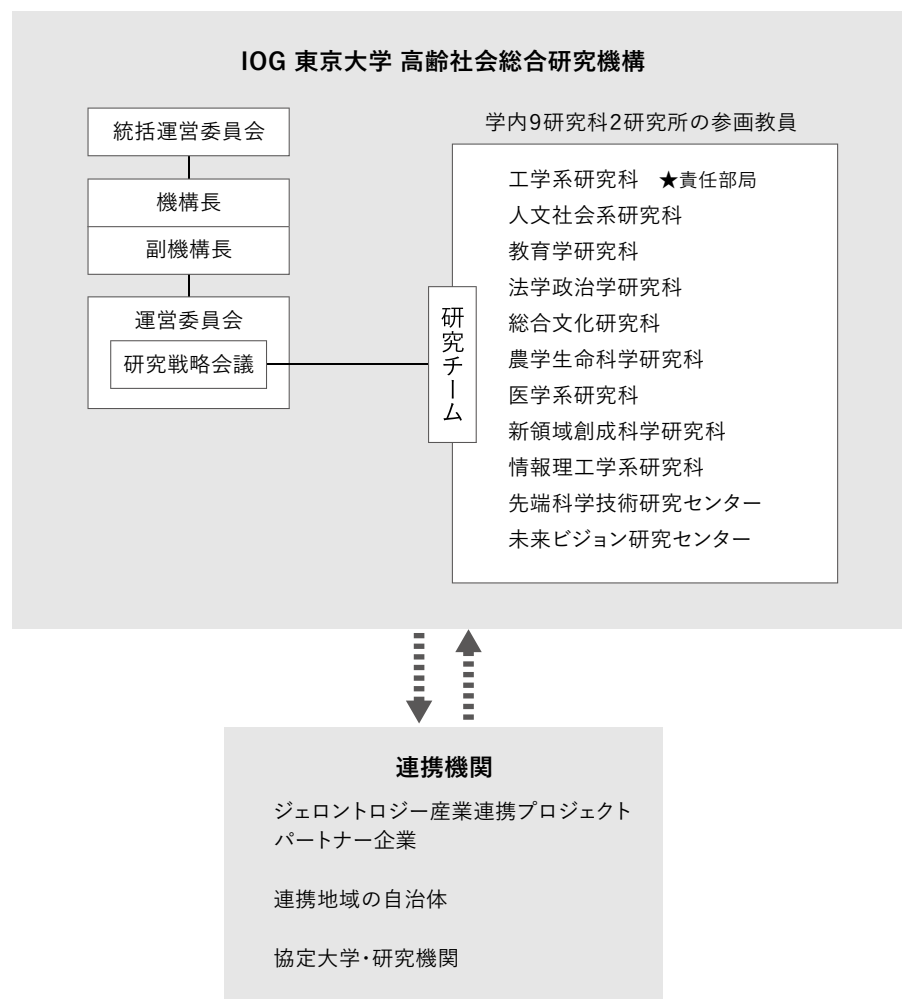


コミュニティを研究する
一概念、定義、測定方法
似内遼一・高瀬麻以・
荻野亮吾・村山洋史(監訳)
新曜社
2023年8月

沿革

2006年 4月	ジェロントロジー寄附研究部門 設置 (平成18年4月に、総長室総括プロジェクト機構の活動の一つとして、日本生命保険相互会社、セコム株式会社、大和ハウス工業株式会社の3社からの寄附金により設置)
2008年 4月	学部横断型ジェロントロジー教育プログラム 開講
2009年 4月	総長室総括プロジェクト機構・高齢社会総合研究機構 設置 産学連携ジェロントロジーコンソーシアム 設立
2009年 6月	柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会 発足 (柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、独立行政法人都市再生機構の3者による共同研究会)
2010年 11月	東京大学柏キャンパス第2総合研究棟 竣工
2011年 4月	産学ネットワーク「ジェロントロジー」 設立
2011年 5月	東京大学柏キャンパス第2総合研究棟 稼働開始
2014年 4月	博士課程教育リーディングプログラム 「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」(GLAFS) 開講
2020年4月	連携研究機構・高齢社会総合研究機構に改組 ジェロントロジー産学連携プロジェクトに組織変更 国際卓越大学院教育プログラム(WINGS-GLAFS) 開講

組織図



IOG 活動報告書 2023

東京大学高齢社会総合研究機構

Institute of Gerontology, The University of Tokyo

TEL.03-5841-1662(代表) / FAX.03-5841-1662

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館7階

E-mail:info@iog.u-tokyo.ac.jp

発行 2024年6月

Editor/Writer 香川志帆(オフィスブライシング合同会社)

池田大作(池田屋)

Designer 相馬文晴(株式会社グローブグラフィック)

北川原由貴

<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

IOG アニュアルレポート2023年度

